

子どもと教職員、保護者や地域と創るクリエイティブ新校舎生活

校長 小山 進治

夏山やよく雲かかりよく晴るる（高浜虚子） 夏雲の湧きてさだまる心あり（中村汀女）

大地を潤す雨がしっかりと降る梅雨空が続いた6月が終わります。それでも梅雨の合間に輝く晴れ間には、太陽がさんさんと輝いていました。引っ越しの準備のために通う新校舎からは、夏雲で見え隠れする富士山が見えました。夏休み明けからはこの風景を子どもたちが毎日目にすることとなります。新校舎から見える富士山は雄大です。

さて、現校舎では、子どもの安全を考えた学びを重ねています。今月は土砂災害訓練、不審者対応訓練、交通安全教室などを経験しました。子どもの学びを保障しながら、教職員は新校舎使用の準備に余念ない毎日を過ごしています。新校舎で子どもたち一人一人が安心して生活できるように、副校長や教務主任が中心となって組織的に検討を重ねています。

- ・昇降口の使い方や廊下、階段の一方通行の約束
- ・教室での過ごし方、特別教室使用時の共通理解
- ・給食指導時の流れや安全配慮
- ・必要時のエレベーター使用
- ・学年指定のトイレや流しの場所決定

新校舎での学びのスタートがスムーズに行えるように教職員一同、協力して取り組んでいきます。6月24日に開催した学校運営協議会の中で、委員の皆様にも新校舎の内覧をしていただきました。7月にはPTA本部役員の皆様にも事前見学をしていただく予定です。保護者や地域の皆様の声も聞きながら、クリエイティブな新校舎生活を子どもと創っていきます。



木製の靴箱が
児童を迎える
昇降口



広々と
開放的で
吹き抜けた
廊下



木の香りや
温もりに
包まれた
教室



避難時や
特別な時に
使用予定の
ベランダ

※体育館棟の改修の関係で夏休みから2月下旬まで通用門が正門から南門に変更されます。